

豊中市議会議員(保守系市民派・無所属)

# 福岡まさき

平成24年10月後援会事務局発行 市政だより

九月定例議会



## しがらみのない無所属議員だからできる市政改革！

9月6日に始まった9月議会は補正予算や請願の審査、人事案件、各常任委員会や本会議個人質問等を行い、22日間の会期が終了しました。今議会では15件の一般会計補正予算の成立や条例の一部改正が決定しました。また、議会運営委員長として「再生可能エネルギーの導入に向けた環境整備を求める意見書」、「地方財政の充実・強化を求める意見書」の2件を取りまとめ国に提出しました。

### 今議会での主な政策議論(一部)

- ◆ 関空、大阪国際空港統合後の新会社への注文や就航都市との交流を通じ、空港をもつ豊中市の活性化と発展。さらに防災拠点としての大阪国際空港の重要性。
- ◆ 子どもの安全やいじめ問題、中学校給食のあり方や今後の課題について。
- ◆ 障がい者や生活弱者への支援、生活保護問題について。
- ◆ 豊中市の健全な都市経営と市民負担の適正化や納付率について。
- ◆ 原発の是非や再生可能エネルギーについて活発な議論が行われました。

### 議長とのコンビは絶好の機会！

私が所属する「新政とよなか議員団」は是々非々の立場を明確にした政策集団として、豊中市政に大きな影響力を行使してきたと自負しています。今年度の議長である中蔵議員と私は民間出身であり、事業経験と長年の地域活動に取り組んできた共通点、同じ年齢で議員に転じた先輩と後輩という関係にもあります。

幹事長、議会運営委員長として、会派出身の議長を支え「決められる民主主義」の更なる実現に取り組んでいます。

### 今期からの実現〇と今後の取組み◇

- 〇本会議での一問一答方式の導入により市民から議論の中身が分かりやすくなったと好評。
- 〇全国的には当たり前になっている本会議場、議長室への国旗、市旗の掲揚が実現。
- 〇議員全員の会派所属による議会活動の活性化(実現後に一人の議員が離脱)
- ◇議員と職員数の削減による総人件費の縮減、市民サービスの向上と健全な自治体経営。
- ◇議会改革の更なる実現をはかり、全会派一致方式からの脱却。
- ◇パフォーマンスや一部の受益者優遇を改め、全体への説明や納得性を得る政治、議員や議会について正確な情報提供と見える化実現。

### 「新政とよなか」議員団控え室

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号  
TEL 6858-2620(直通) FAX 6852-2384

### 自宅

〒560-0082 豊中市新千里東町2-7 C27-1109  
TEL 6833-7705 FAX 6831-1281  
E-mail ximtechs@dab.hi-ho.ne.jp

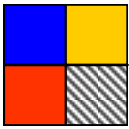
福岡正輝 ホームページもごらんください

<http://www.fukuokamasaki.com>

日常の活動や政治信条、市政の裏話など報告しています。

また、「市政だより」に掲載出来ない詳細部分はブログで公開しています。





# 【福岡まさき】

## 活動日記

### 腐葉土づくり地産地消



学校内の樹木の剪定や除草作業、芝生の維持管理などで大量に出る植物ゴミを環境部のゴミ収集にまわさず、腐葉土として活用できないかと、以前から検討していたところ、力強い指導者・協力者が現れ、地元東丘小学校の片隅をお借りし、やっと実現の運びになりました。

指導者のKさんは、発酵菌を我が子のように愛しみ、地球規模の環境について常に考え行動されている環境コーディネーター。それに応えて、惜しみない労働力提供のガールスカウト61団、そして枯れ葉を集めていただく学校用務員さんと芝生委員会の方々。皆様方の協力で、この秋初めての腐葉土完成にこぎつけました。発酵菌が我が子とまではいきませんが、ほんわかと暖かい土に触れたときは、「やったー」と一人でガッツポーズをしたものです。

完成した腐葉土は学校内をはじめ地域で活動する「花を育てる団体」等にも無償提供していきたいと思えます。



### 豊中市 民生・児童委員会大会

中核市に移行して初めての民生・児童委員会大会が豊中市独自で開催されました。期間別の永年勤続表彰が行われましたが、現職議員ただ一人の民生委員経験者として、その献身的な活動と弱者の精神的支柱としての重要な役割に心より賛辞を送ります。今後も健康に十分ご注意頂きご活躍頂けますようお願いいたします。

そうした中、今年度は久しぶりに民生・児童委員推薦委員になり欠員の補充に取り組んでいます。多くの方のご理解、ご協力で安心社会実現を目指しています。

毎日の活動をブログ形式で残していますが、その一部を編集してお届けしています。詳しい内容や幅広い活動記録はホームページからご覧下さい。

### 「老朽・危険家屋問題」セミナー開催

「老朽・危険家屋問題」についてのセミナーを開催しました。主催はNPO法人「いきいきライフ協会」で私が所属する「新政とよなか議員団」が協力・支援しました。これまでもこの問題を議会で取り上げ、条例制定を視野に入れて活動してきた私としては、タイムリーな企画で非常にありがたいものとなりました。講師として役所から5名の職員に参加してもらい、この問題に対しての現状報告や具体的な取組み状況について、また、条例化について他市の動きなども報告されました。人口減少社会に突入した我が国においてこの問題は避けて通れず、今後は益々増加する見込みです。豊中市でも7戸に1戸は空き家があり、老朽危険家屋についても市のいたるところで見られます。

今や所有者だけでは解決が難しいこの問題の相談体制の確立や具体的な取組みが求められます。そのためには条例制定による老朽危険家屋の取り壊しから再建築が進むシステム作りや最終的にはビジネスモデルとして持続可能な「まちづくり」につなげなければなりません。

こうした遊休資産の活用を進めることで市民の安心・安全確保、結果としての町並み景観の改善や住宅環境都市としての豊中市のブランド力アップになるものと考えます。



# 「いろいろブログ」



## 今後の介護問題と拠点整備

今年も各地域で「敬老の集い」が開催されました。グループホームや地域（校区）での催しに担い手として、また、来賓として多くの現場を見る機会に接しました。関わりを持つグループホームでは、多くのお年寄りがたのしい催しに大はしゃぎ。特に私が来るのを楽しみに待っていたというご婦人の言葉には感激とともに感謝でいっぱいです。

毎年、地域での「敬老の集い」から受ける印象は、参加者数があまり変わらない中で発表される高齢者数の増加が気にかかります。参加者数よりもはるかに多いこれらの方々はどうのようにされているのでしょうか。元気にお出かけしているのか、介護を受けているために参加できないのか、それすら受けられずに過ごしておられるのが心配です。

こうした毎年の経験からも、団塊世代が高齢者としてカウントされるようになり大幅増となってくる今後の介護問題が気にかかります。現在でも老老介護の問題をはじめ、通所デイサービス、ショートステイ、特別養護老人ホームなど福祉施設の整備不足は決定的で、特に千里ニュータウンとその周辺は深刻です。現在この問題に市や社会福祉法人とともに取り組んでいます。千里ニュータウン内に民間の余剰地や候補地は皆無に近い状態です。今後については、これまでのコンサル経験や地域活動経験を活かすとともに範囲を広げるほか、千里ニュータウン内の公営、および公的住宅の建替えなどを絶好の機会ととらえ、市や府、UR都市機構等々にも積極的に働きかけていきたいと考えています。



## ・その他には…

- ◇豊私幼PTA連合会大会
- ◇地域と役所でフル稼働
- ◇自衛隊豊中分屯地の地区計画
- ◇携帯電話基地局の電磁波考察
- ◇台風17号通過
- ◇日本人を勇気づける快挙

## 「大阪国際空港」どう活かすのか

千里阪急ホテルで「大阪国際空港就航都市サミット」が開催され「サミット宣言」がなされました。この企画は豊中市が就航都市に呼びかけ全国25の自治体首長や代理者が出席し、「都市間交流と空港を生かしたまちづくりを考える」のテーマで全体会議を行いサミット宣言を採択しました。

変化の激しい社会・経済状況のなかでこれからの空港の在り方や求められる役割、空港の存在価値などが益々重要視されています。こうした中で当市の取り組んだ就航都市とのネットワークの構築は人・モノ・情報の交流を通じ、地域の活性化や産業振興にもつながる大きな役割を果たそうとしています。

特に関空と伊丹の経営統合により民営化された空港運営には大きな期待がもて、特に伊丹の活かし方いかんで更なる黒字に繋げることができます。要は利用者や航空会社には選ばれない空港や運営会社は自然淘汰される運命にあります。先日も所属する「空港問題調査特別委員会」の一員として統合新会社との要望懇談会に於いてこの事を申し上げるとともに、関空、伊丹の持つ価値の最大化と※コンセッション方式の成功が関空の抱える1兆3000億ともいわれる有利子負債の削減につながる事を進言。

※コンセッション方式 ⇒ 国が施設や土地を保有したまま、運営権だけを民間に売却し、数十年間効率的に運営してもらう。現在の運営権売却価値は6,000億円以上とされています。



## 建設水道決算(平成23年度)委員会質問から

私が所属する建設水道常任委員会が10月23日に開催され、平成23年度決算について質疑されました。以下は私が取り上げた質問と答弁内容(抜粋)の一部です。

Q千里地区の歩路橋は大阪府から移管を受けて以来殆ど手を入れていない。市民の安心・安全確保のため耐震改修のスピード化が必要。また、照明のLED化を進めることで電力料と維持管理コストの縮減を図るべき。

A千里地区にある歩路橋30か所のうち一部の耐震改修は終了したが、今後についてはスピードアップしたい。また、街路灯等の照明LED化については国、府の補助金頼みだけでなく市独自でも取組みたい。

Q国から補助を受け購入し防災広場として整備中の野田中央公園から土壌汚染問題が出た。市は国に対し、購入に対する補助とは別に土壌汚染物件に対する補償を求めるべき。

A当該地から基準値以上の汚染物質が出たのを確認した。このため、盛土や舗装を行うことで安全性を確保しながら公園の整備をすすめる。国に対しては調査結果の通知とともに、対策工事の清算金額が明らかになった段階で協議を行いたい。

Q各近隣センター建替えて先行する東町近隣センターでは移転建替え準備組合を組織し、隣接する府営住宅の建替えに伴う活用用地への市街地再開発事業による移転を進めている。近隣センターにはタウン管理財団から無償移管を受けたオープンスペースを加え市の持ち分も変化している。建替え時には市の持ち分を地域施設の充実に活かすべき。

A建替えの手法や市の持ち分の変化については指摘の通りだが、事業後にどの程度の面積増となるか、清算金が出るかは今後、計画の精査の中で明らかになると思う。

意見 → 千里中央地区再整備に於いて清算金の一部一般会計に回され、コラボ建設に使われなかった苦い経験がある。各近隣センター建替え時には地元要望を形として実現すべき。

Q上下水道事業の借入金については、一定以上の金利については借換えを進めること。更に借入金コスト削減のための努力を継続せよ。

A平成33年度までの11年間で上下水道事業で約12億円の借換え効果が見込まれる。

意見 → 5%未満の借入金利についても国に働きかけ借換えを進めるべき。削減効果については利用者還元と経営の安定化に使うべき。

## ・・言いたい放題・・

今年のノーベル医学・生理学賞を京都大学教授の山中伸弥さんが受賞した。再生医療の「本命」と言われ、ES細胞と比べ倫理的問題もなく、患者自身の皮膚から作れば拒絶反応もないなど、世界が絶賛する「超ド級」の研究開発だと言われている。1987年に受賞した利根川進さんはこの研究から受賞までのスピード達成を賞賛するとともに、「日本の研究者や科学技術のレベルの高さを証明した」とコメントしている。

私が感銘を受けたのは山中さん個人についてだが、今回の成果のかげに多くの方々の理解や

協力、涙ぐましい努力があったことを感謝とともに話された。また、ご本人が超エリートコースをばく進してきたのではなく、挫折や諦めを乗り越え「開発の使命と責任感」を持ち続けたこと。更にこうした受賞者にありがちな「近寄りたがたい存在」ではなく、優しさと厳しさ、ユーモアを併せ持つ普通の大阪のおっちゃんの一面を持つのがなおうれしい。

一方、この国の政治家はどうだろう。膨大な予算と時間を浪費し国民の安心と安全、将来の希望さえ打ち砕きかねない。地位に恋々とし何も決められない「この国の政治」は最大の無駄遣いとも言える。自戒を込めて言えばこうした現状はひとり一人の国民の負うべき結果責任でもあると思うのだが如何だろうか。